

日本の次世代リーダー養成塾を振り返って

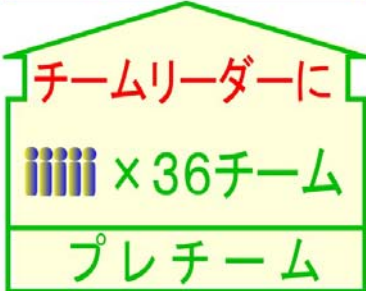
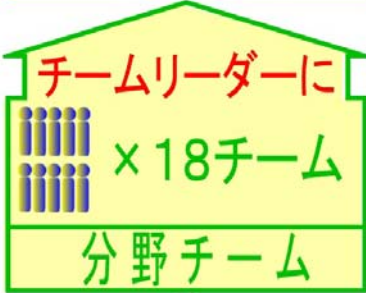
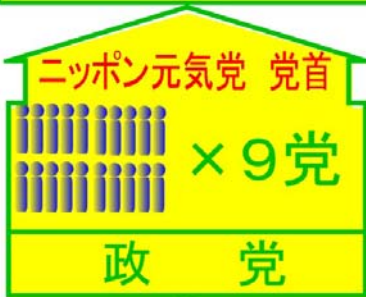
久保田 圭祐

コンペティションの記録

①ハイスクール国会

—総理大臣への軌跡—

総理大臣に



私は地域活性化のプレチームを選択し、自分の経験を元に地域活性化の重要性を訴え、プレチームリーダーを拝命した。その後、分野チームでも、周りのメンバーに推挙され、分野チームリーダーを任せられた。そして、政党結成では、高齢社会分野チームと組むこととした。党首決めでは、高齢社会分野のリーダーとの決選投票となったが、多数決により、党首に任命していただいた。政党名は、話し合いにより「ニッポン元気党」とし、「えがお」をコンセプトとした。政策の検討では、他党より出遅れ、党内に怪訝な雰囲気が出ていた為、他党が政策検討をする中、敢えて、気分転換として党員全員で「だるまさんが転んだ」などのゲームをした。結果、良い政策が沢山出てきて、マニフェスト提出期限までに満足の行くマニフェストが完成した。その後、深夜2時まで、政策発表時のスタイルを検討した。政策発表当日、イメージ戦略として、全政党の中で唯一、服装をリーダー塾Tシャツの着用で統一した。また、政策発表は、有権者が疑問や不満に思うだろう部分を事前に想定し、党員の一部を記者に見立てる「記者会見方式」をとった。一方的に党首が演説する他党と比べると、かなり伝わりやすい発表が出来た。

ハイスクール国会を通し、同年代と「地域活性化」の意見交換が出来たことに充実感を覚えていたところ、なんと「ニッポン元気党」は第一党に選出され、総理大臣に指名された。所信表明演説では、政治とは国民が「えがお」になるためにあるもので、最近はその意義が薄れている。また、政権がころころ変わるのには国民のためにならない。マスコミに惑わされず自分の意思を持ち、一人ひとりが投票に行けば、日本は必ず良くなると訴えた。

総理大臣として、マハティール・モハマド元マレーシア首相のサイン色紙を頂き、党員と、よろこびを分かち合った。



ニッポン元気党の党員で記念撮影！

②先人から学ぶ浪曲プログラム 一寺山的構成で発表作品に！一

「リーダーたる者、歴史から学ぶことが大切である」とのリーダー塾の理念から、今年度は地域の偉人を取り上げた浪曲を作るプログラムが実施された。

私は、青森が生んだ“奇人”寺山修司を題材にした浪曲を執筆した。

いつの間にか、古い施設にいて、そこで寺山修司に出会う。寺山修司と話す中で、彼の人生を紐解いていく。その施設を出ると、そこは寺山の母校の旧校舎であったという寺山の作風に合わせたストーリー。

※クラス内の選考会で、発表作品に選出され、メンバーのアドバイスを元に更に推敲した。結果は、入賞こそ出来なかったが、これを通して、寺山の精神には郷土のパッション、ねぶた祭の燃え滾るエネルギーが流れていることを実感するとともに、メンバーとの友情が深まり、また、郷土の偉人を深く知るきっかけとなった。

※クラス…リーダー養成塾では23名単位のクラスを作り、日常生活を過ごしている。

③次世代みそ汁コンテスト 一『家族愛』のみそ汁で最優秀賞に！一

プレゼンの総指揮を執った。家庭内殺人が毎日のように報道される今日、次世代を救うのは、コミュニケーションで深く結ばれた「家族愛」である。そこで、我がクラスでは、「家族」をテーマにしたプレゼンを実施した。インパクトのある、伝わりやすいポスターを作成し、脚本は、観客を惹きつけるため、テーマに即したコントを交えたものとした。結果、我がクラスのプレゼンは、他のクラスと一線を画くして、見事、最優秀賞を受賞することができた。



肝心のみそ汁であるが、健康に配慮し、ゴマペーストを隠し味にして、野菜の苦手な子供から、歯の弱い高齢者まで楽しんで食べられるように野菜と小麦粉で作った紅白だんごを具とした「ふあみそ汁」を考案した。

メディア掲載履歴

媒体	掲載日	メディア名	タイトル	資料
新聞	2010/8/10	西日本新聞	超短波「元気党党首が所信表明」	○
新聞	2010/8/29	読売新聞[福岡版]	国際舞台で活躍できる人材を 第7回日本の次世代リーダー養成塾	○
新聞	2009/8/31	毎日新聞[福岡版]	多彩な論議 熱い議論 第7回日本の次世代リーダー養成塾	○
テレビ	2009/10/2	青森朝日放送	message 日本の未来を創るのは僕たちだ!	○

資料内容

- 第7回日本の次世代リーダー養成塾プレスリリース
- ニッポン元気党マニフェスト
- 掲載記事
西日本新聞、読売新聞、毎日新聞、青森朝日放送
- 総理大臣 任命証
- みそ汁コンテスト 表彰状



榊原英資塾長代理から卒業証書を頂きました！